

令和6年度第4回地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 議事録

日 時	令和6年11月6日（水）10時30分～12時00分	
場 所	アクロス福岡 608 会議室	
出席者	委員	済生会福岡総合病院 院長 松浦 弘 九州大学大学院医学研究院 准教授 福田 治久 福岡市医師会 副会長 案浦 美雪 福岡県看護協会 会長 大和 日美子 公認会計士 行正 晴實
	事務局	福岡市保健医療局長、同理事、同総務企画部長、同病院事業課長
	病院機構	理事長、副理事長、運営本部長、法人運営課長 福岡市立こども病院事務部長、同看護部長、同総務課長、同経営企画課長 福岡市民病院事務部長、同看護部長、同総務課長、同医事課長
次 第	1 開会 2 議事 （1） 地方独立行政法人福岡市立病院機構第5期中期目標(案)の報告について （2） 地方独立行政法人福岡市立病院機構第5期中期計画(案)について	
配付資料	【配付資料】 資料1－1 地方独立行政法人福岡市立病院機構 第5期中期目標(案) 資料1－2 現行（第4期）中期目標と第5期中期目標(案)の比較対照表 資料1－3 第5期中期目標(案)に対する意見書(案) 資料2 第5期中期目標(案)と第5期中期計画(案)の比較対照表 参考資料1 関係法令（抜粋） 参考資料2 第5期中期計画について 参考資料3 第4期中期目標期間中の各年度実績値等および第5期中期計画の目標値	

(1) 地方独立行政法人福岡市立病院機構第5期中期目標(案)の報告について

○事務局

【資料1－1、資料1－2、資料1－3について説明】

○委員長

事務局より報告がありました第5期中期目標(案)につきましては、前回の評価委員会の意見が適切に反映されていることを私の方で確認させていただきましたので、お手元の資料1－3の内容で、評価委員会の意見書として市に提出したいと考えておりますが、委員の皆様からご意見はございますでしょうか。

○各委員

異議なし

○委員長

それでは、委員の皆様から承諾をいただきましたので、意見書については案のとおり採択させていただきます。

それでは、議事(1)についてはこれで審議を終わらせていただきます。

(2) 地方独立行政法人福岡市立病院機構第5期中期計画(案)について

○事務局

【参考資料2について説明】

○病院機構(運営本部)

【資料2について説明】

○委員長

それでは、ただいま説明いただきました第5期中期計画(案)について、委員の皆様からご意見等を伺いたいと思います。

○委員

資料2について、いくつかお伺いします。

まず、3ページ目の「前文」について、ここでは災害発生時への対応の記載がないですが、第5期中期計画では災害等への取組も重視されているかと思しますので、その点の記載も考慮されるべきではないかと思いました。

次に、7ページ目の「患者サービス」について、指標としては従来通りということですが、患者ニーズを的確に捉えながら対応するということはレベルの高い目標だと思しますので、これを的確に捉えて対応するためには、アンケート調査等で挙がってきた患者ニーズを何件

汲み上げられたか、また、そのうち何件改善したという改善率などを指標項目にしないと評価できないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○病院機構（こども病院）

患者アンケートにつきましては、グーグルフォームで実施しており、内容としましては、各職種の接遇に関する評価に加え、病床環境や食事、利便施設に関することのほか、自由記載欄を設けておりまして、5段階評価以外のニーズの把握に努めております。これまでもこちらの自由記載欄のご意見をもとに、院内 Wi-Fi の環境整備や付き添い者パンフレットの更新等を行っております。アンケートには毎日目を通させていただきまして、内容に応じて関係部署と共有し、迅速に対応しているところでございます。また、接遇・療養環境委員会におきまして、適宜アンケート内容の見直しを図っております。見直し内容の1つとしましては、令和6年11月から患者ご家族、ご両親、保護者の方の意見だけではなく、子ども視点での意見を抽出できるように、子ども向けのアンケートの項目も開始しております。内容としましては、子どもの入院患者がよく接する場所、医師や看護師、検査技師といった、よく接する職員に対する接遇の評価や入院中の給食に関する自由記載欄、それ以外の病院に対するご意見といった自由記載についても質問しており、ニーズの把握に努めているところでございます。

○委員

ニーズの把握については今説明いただいたアンケートの取組みで分かりますが、ここではニーズを的確に捉えた上で対応するという記載になっているかと思いますので、指標設定が難しいのであれば定性的に評価するというところに努めていただければと思います。

続いて、9ページ目の新規で追加された指標の医療安全に関するレポート報告件数について、これに関しては私も20年前に研究しておりまして、この報告件数というのは一般の方にはレポート報告件数が多いことは事故件数が増えているのではないかと等と誤解を招く恐れもあるので、一般の方にも理解できるような記載にした方がいいように思います。仮に、インシデントであればレベル0からレベル2相当の報告件数に絞っているなど、そのようなところをしっかりと記載した方がいいかと思いますし、また、このような報告件数を目標に設定した場合に、報告内容が本来の目的から外れた内容もカウントされないか少し懸念しております。例えば、蛍光灯が消えているから患者が転倒して事故にならないように報告したなど、本来の目的から外れた内容の報告件数も上がってくると聞いたことがありますので、その点は留意していただければと思います。

続いて、こども病院の新規指標の手指消毒平均回数について、どのような方法で回数をカウントされるのでしょうか。

○病院機構（こども病院）

こちらは、手押し式で用いる速乾性手指消毒剤の積算消費量を1回2プッシュの量で割り算して回数を算出しております。また、JACHRI（日本小児総合医療施設協議会）の会員施設の平均値を用いて、目標値を設定しております。

○委員

こども病院ではないことだと思いますが、消毒液の消費量により回数を算定した場合に、極端な例として、消毒液を捨てるなどの不正行為の事例も聞いておりますので、そうした点も含めると若干の懸念があったというところです。

また、新規指標のクリニカルパス使用率についても懸念しておりますのが、救急搬送患者の中にはクリニカルパスが適用とならない症例もあり、救急搬送による入院患者数も母数に入れると使用率は当然に下がっていくと思います。今回、全体的な指標としては救急搬送患者の受入れを増やすことを重視しているかと思いますが、例えば、クリニカルパス使用率の対象者を予定入院患者数にするなど検討していただければと思います。

最後に、10 ページ目の「職場環境の向上に向けた取組」について、今回、ハラスメント研修やマネジメント研修に関する記載が追加されていますが、それに対する指標は設定されていないので、例えば、全職員対象のハラスメント研修受講目標 100%、マネジメント研修受講目標 100%、ストレスチェック回答率 100%などの指標設定はできるのではないかと思います。この点についてはいかがでしょうか。

○病院機構（運営本部）

ご意見ありがとうございます。ハラスメント研修等に関する指標設定につきまして、検討させていただきます。

○委員

1 点気になったのが、9 ページ目の「情報発信」について、市民・患者が中心の記載になっていますので、地域医療への貢献と医療連携の観点からも医療機関に向けての情報発信も必要ですので、その辺のところも少し追記していただければと思います。

○病院機構（市民病院）

ご意見ありがとうございます。大変重要なご指摘だと思います。当院の若い先生たちは、医局の異動で変わったり、顔が見えなくなるということは十分にありますので、委員ご指摘のとおり検討させていただきます。

○委員

私からもいくつかお伺いします。

まず、5 ページ目の「地域医療への貢献と医療連携の推進」という中で、シニアのサービスにも繋がりますが、最近は多くの病院でACP（アドバンス・ケア・プランニング）の取組が強化されてきました。福岡市は早期からACPに取り組んでいて、講演会の開催やノートを作成して配布するなど様々な取組をされていますが、こども病院は別として、市民病院はACPに積極的に取り組んで職員への周知、患者へのアプローチをした方がいいのかなと思いました。それは救急医療に力を入れて4年後の黒字化を目指す、収益源にしたいという場合、救急搬送患者の多くが高齢者、特に後期高齢者であり、蘇生するかどうかということをよく聞きますが、当事者がどのような人生を送りたいか、どのような最期を迎えたいかという話を事前にしておくべきで、そのような取組が大変重要になるのではないかと思います。

次に、6 ページ目の「災害・感染症等への適切な対応」について、災害時と平時の支援体制が中心になっていますが、受援体制を整備することによって支援がしやすいという話もございます。病院として災害が起こったときに受援をどうするか、受け入れるときにどのように動くか、誰が核となるか、受援システムをきちんと整理しておくということが支援に繋がると言われておりますので、支援だけではなく受援体制の整備も重要ではないかと思います。

続いて、10 ページ目の「職場環境の向上に向けた取組」について、ストレスチェックに関しては、これまで努力義務であった従業員数 50 人未満の職場も義務付けられましたので必ずやらないといけないものです。あとは、そのストレスを抱えた職員の相談窓口がきちんと整備されていないと、この要因の解消等々に繋がらないと思いますので、両病院ともに相談の窓口支援者が誰なのかを明確にしていなければいいと思っております。ハラスメントに関しましては、患者や家族からのハラスメントのほか、職員間でも非常に多いですので、細かいチェックというよりも内部でハラスメントを起こさない風土づくりが必要であると思います。

最後に、先ほどの情報発信の指標の中で広報誌の発行回数が年 4 回と書いてありまして、紙媒体の広報誌の必要性について私の協会でも話が出ていました。広報誌作成にあたっては労力や費用がかかるのでそれらを勘案したときに、年 4 回の広報誌が本当に必要なのかという協議、代替案として SNS を使った新しい情報発信等に取り組むことも一つの戦略ですので、ご検討いただければと思います。

○病院機構（市民病院）

ご意見ありがとうございます。広報誌の媒体見直しにつきましては、現在検討を始めておりまして、例えばデータで QR コードを読み取っていただくようにするのか、メール配信にするのか、その辺について検討に入っているところでございます。発行はいたしますけれども、必ずしも紙媒体ではないかもしれないというところで検討を進めております。

○委員

先ほどの広報誌の話ですが、地域の医療機関には紙で配布していただいた方がうれしいです。外来表だけでもいいので紙でいただければ非常に助かります。

○委員

10 ページ目の「先端技術の活用推進等による業務改善」について、セキュリティ対策に関する記載がありますが、実はランサムウェアに攻撃されて重大なダメージを受けた会社は多数あります。他の病院でもランサムウェアに攻撃された事例もありますので、セキュリティ対策に関しては十分な対応をしていただきたいと思います。特に病院においては、電子カルテなど様々な情報があると思いますので、そういうのも含めて十分な対応を検討していただければと思います。

最後に、先ほど他の委員からハラスメントに関する指標に関してご意見がありましたが、指標設定するのであれば、こちらの目標値は 100% であるべきだと思いますので、ぜひ対応していただければと思います。

○委員長

本日、委員から出された意見については、第5期中期計画(案)に適切に反映していただくようお願いし、議事(2)についてはこれで審議を終わらせていただきます。

それでは、以上をもちまして本日の議事はすべて終了となります。

○事務局

本日、各委員からいただいたご意見を踏まえた第5期中期計画(案)につきましては、次回の評価委員会でご確認いただく予定としておりますが、修正の状況によっては、資料の持ちまわりで各委員に修正案をご確認いただき、その際に、第5期中期計画の認可にあたっての意見書の確認をいただき、最終的には取りまとめた意見書を市にご提出いただきたいと思いますと考えておりますが、よろしいでしょうか。

○各委員

異議なし(了承)

○事務局

ありがとうございます。

それでは、閉会にあたりまして、保健医療局長の藤田よりご挨拶申し上げます。

【保健医療局長藤田より閉会の挨拶】

以上をもちまして、本日の委員会を終了させていただきます。